

第8回 十勝川千代田実験水路等実験アドバイザー委員会概要

十勝川千代田実験水路等実験アドバイザー委員会を3/11に札幌で開催しました。

北海道開発局では、平成19年4月から運用を開始した十勝川千代田新水路の一部を、河川整備を進めていく上で解明すべき様々な技術的な課題に関する実験研究を行う実物大実験水路として活用しています。

十勝川千代田実験水路等実験アドバイザー委員会は、実験水路において実施する実験研究に関して、河川工学等の専門的な立場から以下に関して助言をいただくものです。

- 1) 実験研究の長期計画の策定・変更
- 2) 実験研究の評価に関すること
- 3) 活用研究者の選定に係ること

このたび、第8回十勝川千代田実験水路等実験アドバイザー委員会を、札幌において下記の内容で開催しました。

【委員会の開催日時等】

- ・ 日 時：平成26年3月11日 13:30～16:30
- ・ 開催場所：かでの2.7 10階 1030会議室



写真-1 第8回アドバイザー委員会の様子

第8回アドバイザー委員会には、委員5名のうち4名が出席いたしました。

事務局から平成25年度に実施された破堤拡幅抑制工に関する実験実施報告、平成26年度の実験実施方針について説明を行い、その後委員により活発な意見交換が行われました。

なお、委員会は公開で行いました。

【第8回アドバイザー委員会の議題】

- (1) 平成25年度
破堤拡幅抑制工実験 実験実施報告
- (2) 平成26年度
破堤拡幅抑制工実験 実験実施計画

十勝川千代田実験水路アドバイザー委員会の委員名簿

(平成26年3月11日現在)

区分	氏名	所属
委員	黒木 幹男	元北海道大学大学院 工学研究科 准教授
委員長	辻本 哲郎	名古屋大学大学院 工学研究科 教授
委員	藤間 聡	室蘭工業大学 名誉教授
〃	原 俊哉	国土交通省北海道開発局 建設部 河川計画課長
〃	山田 正	中央大学 理工学部 都市環境学科 教授

(50音順 敬称略) 山田委員は欠席しました。

第8回十勝川千代田実験水路等実験アドバイザー委員会の主な意見

(1) 平成25年度 破堤拡幅抑制工実験 実験実施報告について

- 今回の実験では破堤拡幅の抑制を確認することができたが、破堤拡幅を抑制できた要因を水理的に明らかにしていく必要がある。
- 一つ一つの現象の整理はできているが、各現象の相互の関連性の分析などを進め、破堤拡幅抑制工実験の全体を理解できるような整理が必要である。
- 破堤現象を単純な現象としてとらえるのではなく、氾濫流の流れや水面形、堤体土質の強度など、多面的な視点で現象を理解していく姿勢が必要である。
- 報告書のとりまとめにあたっては、現象の理解に必要な観測データを不足なく正確に記載する必要がある。

(2) 平成26年度 破堤拡幅抑制工実験 実験実施計画について

- 破堤抑制工の設置による上流側への破堤進行、出水時の限られた時間の中でのブロック設置の実現性、天端上のブロック設置の可否など、実際の出水時に本工法を用いるために必要な検証を別途行っていく必要がある。
- 実物大実験とは言え、大河川における氾濫流はより大きな外力となることが想定される。そのため、千代田実験水路での検証実験結果を他の大河川に適用する際には、その適用性を明らかにしておく必要がある。
- 小規模の模型実験を併用して実験研究を進めていくことは評価できるが、小規模実験と現地実験でそれぞれどのような検証実験が可能なかを整理しておく必要がある。
- 実験結果を河川行政に活かしていくために技術指針のような整理が望ましいが、実験成果をもとに作成される指針の適用性について考えておく必要がある。
- 千代田実験の長期的な研究方針について、今後、議論を深めていく必要がある。
- 次年度の現地実験を実施する際には、防災関係者に加えて、防災教育の一環として学校などへも参加を呼びかけることが望ましい。

今 後 の 予 定

- ◇ 今回の「第8回 十勝川千代田実験水路等実験アドバイザー委員会」で指摘された事項や助言を踏まえて、次年度に実験を実施し、分析を進めていきます。